



サステナビリティの道なり

2024年のボルカフェの取り組み





はじめに

ボルカフェは、世界25カ国以上から多様なコーヒーを調達し、世界中のお客様へお届けしています。私たちは、コーヒーの未来が多様な生産者の存在に支えられていることを理解しており、中南米、東アフリカ、アジア太平洋地域に展開する15の産地拠点ネットワークを通じて、その実現を後押ししています。

170年以上にわたりコーヒー生豆を取り扱ってきた企業として、私たちは、コーヒー栽培に携わる農家が直面するさまざまな課題を認識しています。気候変動、農業慣行の変化、価格の変動や市場へのアクセス、さらには根強い社会的・構造的な問題など、これらはすべて、農家の仕事や暮らしを複雑にしています。しかし、私たちは、的確な支援がこうした課題の解決に大きく貢献し、農家がコーヒーを通じて安定的で持続可能なビジネスを築いていけることを数多くの現場で目の当たりにしてきました。

ボルカフェのサステナビリティ戦略は、「ボルカフェ・ウェイ」農家支援プログラムに所属する250人以上の現場技術者によって支えられています。この戦略は、農家が現代のコーヒー産業が抱える課題を乗り越えられるよう支援することを目的としています。私たちのサステナビリティ戦略は、「持続可能な収益性」「再生可能な農業実践」「責任ある市民活動」という3つの柱で構成されており、農家との日々の関わりにおいてその指針となっています。そしてロースターのお客様と連携しながら、コーヒーコミュニティにポジティブな変化をもたらす活動を推進しています。

本レポートでは、世界各地で展開されているこれらの取り組みをご紹介します。これらはスケールアップが可能で、再現性のあるソリューションでもあります。私たちは、お客様やその他のステークホルダーの皆様とともに、持続可能なコーヒービジネスの未来に向けて、どのような形で協力していけるかを話し合える機会を楽しみにしています。

目次

- 5** — 進歩の1年
- 6** — 持続可能な収益性
- 14** — ホンジュラスの新しい水洗工場
- 16** — 再生可能な農法
- 28** — ウガンダでの気候変動に配慮した取り組み
- 30** — 責任ある市民活動
- 38** — ペルーでの農業研究開発
- 43** — お問い合わせ

進歩の1年

グローバル・サステナビリティ・ディレクター
Raphaelle Peinado氏からのご挨拶

サステナビリティは、いまやビジネスに大きな影響を与える重要な要素となっています。気候変動、社会経済の変化、規制環境の進化といった要因は、新しいアプローチを求めており、環境・社会・ガバナンス（ESG）を統合した取り組みが不可欠です。同時に、そうした課題が革新的な解決策を生み出すきっかけにもなっています。

ボルカフェのビジョンは、「すべての人にとって
繁栄し、持続可能なコーヒー業界を築くこ
と」です。その実現のために、私たちはコー
ヒー農家やロースターのニーズに応え、相互
に成長を促すパートナーシップを築きなが
ら、新しい発想や技術を積極的に取り入れ
ています。

本冊子では、この1年間におけるビジョン実
現への取り組みと成果をご紹介します。コー
ヒービジネスをさらに良くしていくためのご意
見やアイデアも、ぜひお聞かせください。



**新たな課題は、
しばしば
革新的な
解決策を生み出す
きっかけとなります**

持続可能な収益性

農園主が努力に見合った正当な見返りを得られれば、その収益を農園の改善や持続可能性の向上に再投資する意欲が高まります。逆に、努力が報われなければ、農園を維持する動機は失われてしまいます。

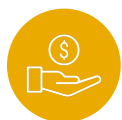
ボルカフェ・ウェイは、「農業はビジネスであり、適切な方法を実践することで目に見える改善と収益が得られる」という考え方を基盤としています。

私たちは、記録管理の改善やコスト削減から、歩留まりや品質を高める農法の導入まで、幅広いトレーニングやアドバイスを通じて農家を支援しています。また、ジェンダー平等の推進や子どもの保護といった社会的課題の根本解決に取り組むプロジェクトにも力を入れています。これらすべてが、持続可能な収益性を実現するための土台となります。

高品質なコーヒーはより高い価格で取引され、認証基準を満たす農園はさらにプレミアムを得ることができます。ボルカフェは、4C、フェアトレード、オーガニック、レインフォレスト・アライアンスといった主要な持続可能性認証に積極的に関与しており、2024年には「ボルカフェ・ベリファイド（Volcafe Verified）」と「ボルカフェ・エクセレンス（Volcafe Excellence）」のバリューチェーンを加え、責任ある自社調達をさらに拡充しました。責任ある調達と、それに基づくパートナーシップは、農家が持続可能な収益を確保するための大きな機会につながります。

「持続可能な収益性」という視点を通じて、農園への投資・コスト・収益を有機的に結びつけることで、同じ農園からより高い歩留まりを実現し、同じ農家がより高い収入を得られる事例を数多く確認してきました。次のページでは、持続可能な収益性への移行を、いくつかの角度からご紹介します。

農家とその家族が安定した生活を送れるようにすることを目的とした、このサステナビリティ戦略の柱は、以下の方針に重点を置いています。



1. ビジネスとしての農業



2. 品質向上



3. 責任ある調達

ビジネスとしての農業

ボルカフェにとって、「農業を一つのビジネスとして捉えること」は基本的な考え方です。私たちは、生産者は起業家であり、適切な取り組みを行うことで事業を成長させられると考えています。それは、記録やコスト管理の改善、持続可能な農業技術の導入、あるいは品質の一貫性を重視する姿勢に表れます。

ボルカフェ・ウェイ農家支援プログラムでは、11の生産国で250人以上の現場技術者が活動し、45,000人以上のコーヒー農家に直接技術支援とトレーニングを提供しています。また、ボルカフェ・ウェイでは、700以上のビジネスモデル農園のネットワークを展開しており、生産者はボルカフェのサプライヤーでなくても、新しい技術や手法を直接学ぶことができます。

2024年には、ボルカフェ・ウェイの技術者たちが、森林管理、土壌の健全性、コーヒーの若返りと植え替え、農薬の安全な使用、児童労働の防止、ジェンダー平等の推進など、幅広いテーマに関する実践的なアドバイスや研修を実施しました。研修はグループ形式から個別農園訪問まで多岐にわたり、技術者は農園で何時間も生産者とともに過ごすこともあります。

ブラジルでは、2024年に「コーヒーと経営」プロジェクトを通じ、29の小規模・大規模生産者が事業運営において優れた経営手法を取り入れる取り組みが行われました。このプロジェクトでは、ボルカフェ・ウェイの技術者が参加農園を毎月訪問し、農園の財務管理を改善するための診断と行動計画を共同で策定します。農園では、同業者が集まり、互いの農園の分析結果を共有し、新品種の導入や剪定による作物改良、収穫コストの削減方法など、改善の可能性を議論します。私たちの技術者は、安定した強靱な未来に向けて正しい道筋を見出すことに重点を置き、データの解釈や意思決定において農園を支援しています。



ブラジルでデータを分析する農家と技術者



ベトナムの農家への研修

品質向上

高品質なコーヒーはより高値で取引されるため、農家の品質向上をサポートすることは、持続可能な収益性を実現するうえで非常に重要です。特に、収穫直後のコーヒーチェリーを適切に乾燥させることは、最終製品の品質に大きく影響します。ボルカフェでは、コーヒー本来の品質を守るために、さまざまな技術やツールを活用して農家を支援しています。

タンザニアでは、収穫の最盛期に生産者協同組合（AMCOS）がアフリカンベッド（乾燥台）の容量不足に直面することがあります。熟したチェリーが大量に集まるため、乾燥台の処理能力を超えてしまい、結果として強い日差しの下で無理に乾燥させたり、新たに収穫されたチェリーを不適切な状態で保管せざるを得なくなったりします。その結果、コーヒーの品質が損なわれる可能性があります。この課題に対応するため、ボルカフェのグループ会社であるテイラーウインチ社は、2024年に提携先と協力して農協向けに10台以上の新しいアフリカンベッドを設置し、北部と南部の乾燥台の総数を55台に増やしました。新しいアフリカンベッドは旧モデルより耐久性が高く、大量のコーヒーを効率的に乾燥できるため、品質が向上し、最終的に農家の収入増加につながります。

ペルーのハエン地方では、私たちのチームが竹製の天日乾燥庫を建設し、シュンバの水洗工場を強化しました。ポートランド・コーヒー・ロースターズ社の資金提供により完成したこの施設では、周辺地域の25軒の農家が、温室のような屋内環境でコーヒーを乾燥させることができます。



タンザニアのアフリカンベッド

天日乾燥庫は、コーヒーを湿気や害虫から守ることで劣化を防ぎ、費用対効果が高く、信頼性があり、品質を向上させる再現可能な手段であることが実証されています。ペルーのボルカフェ・ウェイチームは、2021年以降、生産者による800基以上の天日乾燥庫の建設を支援してきました。



パプアニューギニアでは、現場の技術者がモロベ州とイースタン・ハイランド州の農家に、1,000枚以上のコーヒー乾燥用シートを配布しました。この防水シートは、コーヒーが乾燥する際に地面と接触しないようにすることで、品質向上を支えています。同時に、コーヒーの木の剪定や若返りに関するトレーニングやアドバイスも提供し、生産性と歩留まりの向上をサポートしています。



また**中国**では、雲南のボルカフェチームが200人の生産者を対象に、乾燥機の使い方や品質の安定・向上に役立つ乾燥技術についての研修を行いました。

責任ある調達

農家にとって、サステナビリティ規格の要件を満たすことは、持続可能な収益性を実現するもうひとつの道となります。ネスプレッソAAA、C.A.F.E.プラクティス、レインフォレスト・アライアンス、フェアトレード、オーガニック、4Cといった主要な認証制度やサステナビリティ規格、あるいはボルカフェRS（Responsible Sourcing）プログラムのような自社規格のいずれにおいても、基準を満たした農家はコーヒーにプレミアムをつける資格を得ることができ、その結果、生活の向上につながります。

ボルカフェは、ボルカフェ・ベリファイドやボルカフェ・エクセレンスのバリューチェーンを構築することで、ボルカフェRSの拡大を進めつつ、多くの主要認証制度と連携しています。これらの取り組みに共通するのは、農園での生活向上、環境保護、社会的進歩の促進に重点を置いていることです。

2024年度には、全世界でボルカフェの総取引量の40%が、認証制度や独自のボルカフェRSプログラムを通じて、責任ある方法で調達されたコーヒーでした。こうした取り組みは、EU森林破壊規制（EUDR）などの新たな法規制への対応にもつながります。

2024年には、責任ある調達先バリューチェーンの拡大の例として、中国事業が雲南省の200世帯のコーヒー生産者と協力し、レインフォレスト・アライアンス認証を取得。合わせて500トンのコーヒーを認証することに成功しました。また、コロンビア、グアテマラ、ホンジュラス、ペルー、ベトナムなどの生産国でも、ボルカフェRSのバリューチェーン拡大に向けた大規模な取り組みを行いました。

責任を持って調達された2種類の認証



ボルカフェ・ベリファイドとボルカフェ・エクセレンスについては volcafe.co.jp をご覧ください。



ホンジュラスのコーヒー生産者に サービスと確実性をもたらす新しい水洗工場

中米ホンジュラスにあるボルカフェのグループ会社、モリノス・デ・ホンジュラス社は、農家との距離を縮める取り組みに以前から力を入れてきました。中間業者を介さない直接購入や、ボルカフェ・ウェイ・プログラムによる生産指導やトレーニングの提供などがその一例です。さらに、主要コーヒー生産地に水洗工場などの加工施設を整備することも、農家支援の重要な方法のひとつです。

農家がコーヒーチェリーを近くの水洗工場に持ち込み、水洗・加工することで、さまざまな恩恵を受けられます。近隣で精製することで時間を節約でき、輸送コストも削減されます。また、収穫直後に処理することで、害虫や雨風にさらされる前に高品質なコーヒー豆を確保でき、結果としてより良い価格で販売することが可能になります。

2024年には、コーヒーロースターのシュトラウス社との提携により、モリノス・デ・ホンジュラス社は老朽化したカハ・ルール・スヤパ水洗工場を近代化しました。新しい施設には、水循環システム、天日乾燥庫、コーヒーの果肉を保管する専用倉庫が設置され、水の使用量や廃棄物管理が改善されるとともに、1時間あたりの処理能力が2倍になりました。

さらに、ホンジュラスチームはエル・パライス県に新しいエル・チレ水洗工場を2024年に稼働させました。ロースターパートナーであるスターバックス社の支援で建設されたこの工場は、数百のコーヒー農家に効率的な加工手段を提供します。エル・チレ水洗工場では、農園ごとに異なる工程で生産されたコーヒーを均一に加工できるため、全体の品質向上につながり、農家の収益改善にも貢献します。また、残ったパルプや水の処理を合理化し、周辺地域への流出を防ぐ仕組みも整えられています。水洗工場の処理能力は、1時間あたり9,000キロ以上のコーヒーチェリーに達します。

モリノス・デ・ホンジュラス社は、収穫ごとにコーヒー生産者に新たなサービスと確実性を提供する取り組みの一環として、来年、新たな水洗工場を建設する予定です。



ホンジュラス、エル・チレ工場



スヤパ工場の改修工事

再生可能な農法

コーヒーやその他の作物を栽培する農家にとって、土地は最も重要な資源です。持続可能な収益性は、農園が国内の条件や生態系の現実に適応してこそ実現できるものです。気候変動に直面する今、農園とその未来を守るために農家が行き組める実践的な手段があります。

私たちのサステナビリティ戦略の第二の柱は、気候変動に対応する再生可能な農法を重視することです。万能な解決策はありませんが、農園は土壌の健全性、農園の生産性、生物多様性の保護に貢献しつつ、環境負荷を低減する再生農法のツールを選ぶことができます。これらの農法は必ずしも直感的でわかりやすいものではなく、新しい手法を取り入れることは農家にとって信念の飛躍となる場合もあります。

ボルカフェ・ウェイの農業技師チームは、農園の回復力を高め、二酸化炭素を削減し、生物多様性を促進するための適切な再生可能な手法を選択できるよう、何万もの農園を現場で支援しています。技術者は農園を訪問して農家と直接対話し、優れた実践を示すモデル農園のネットワークを活用しながら、新しい取り組みを広く普及させるための研修を提供しています。

またボルカフェは企業として、気候変動に関連する取り組みを自社オペレーションにも反映させています。2024年には、世界中のチームが、2025年末から適用される欧州連合森林破壊規制（EUDR）に向けて準備を行いました。この規制はコーヒーを含む一部製品の森林破壊に対応することを目的としており、社内システムの改善、リスクマッピングの強化、農家とのエンゲージメント強化などが全社的に進められています。

次のページでは、ボルカフェが農家に再生可能な手法を導入し、気候変動への対応力を高めるための支援についてご紹介します。

気候変動への対応に焦点を当てたサステナビリティ戦略のこの柱には、以下の要素が含まれています：



1. 回復力のある農園



2. 炭素削減



3. 生物多様性の保護

回復力のある農園

気候変動は、コーヒー農家にとって絶えず変化する大きな課題です。天候パターンの変化により、ある季節は干ばつに見舞われ、次の季節には霜や洪水が発生します。さらに、害虫や植物の病気が新しい地域に広がり、一昔前の栽培方法が通用しなくなることもあります。コーヒー農家が将来にわたって繁栄するためには、こうした課題に対応し、農園の回復力を高める取り組みが必要です。ボルカフェは長年にわたり、農園が変化に適応するための技術や資材の実証と普及に取り組んできました。ここでは、昨年実施した具体的な事例をご紹介します。

コロンビアでは、ボルカフェのグループ会社カルカフェ社が、アンティオキア州のコーヒー生産農家400世帯と協力し、国際市民社会組織ソリダリダード (Solidaridad)とのパートナーシップのもと、コーヒーの植え付けと森林管理を組み合わせた取り組みを行いました。これにより、14,000本以上の木陰や果樹（21種の在来種）が新たに植えられ、土壌の回復、食糧安全保障の向上、そしてコーヒーの木の成長を支えています。新しく植えられた木々は炭素を吸収し、非営利団体ACORNおよび金融機関ラボバンク (Rabobank) との提携により、農園はカーボン・クレジットを生成・販売できるようになりました。さらに、農園には水処理システムと堆肥ピットが設置され、化学物質の流出やメタン排出の削減も支援されています。

ウガンダでは、ボルカフェのグループ会社チャガラニ・コーヒー社が、地球環境ファシリティ (GEF) およびネスプレッソ社と提携し、マサカ地域の零細コーヒー農家2,200軒の収入と農園の回復力を向上させました。プロジェクトの一環として、間作やアグロフォレストリーなどの再生農法を実証するために35のモデル農園を設置しました。これらのモデル農園は、総合的な土壌肥沃度管理からジェンダー平等まで、さまざまなテーマに関する研修を行うフィールドスクールとしても機能しています。

アグロフォレストリーを実践するコロンビアの農家たち



ケニアでは、ボルカフェのグループ会社テイラー・ウィンチ社が、マチャコス地域のボルカフェ・ウェイ・ビジネスモデル農園を支援し、カバークロップ（土壌浸食を防ぎ有機物を補う作物）やマルチングなどの再生農法を導入しました。この取り組みでは、コーヒーの畝間にブルーグラスを植え、収穫後にマルチング材として利用します。

マルチングは保湿、土壌肥沃度の向上、除草剤を使わない雑草抑制の効果があり、こうした手法の適用により、コーヒーの生産性が向上します。実際に、この農園では1株あたりの歩留りが最大で50%向上しました。モデル農園で示された技術は、地域内の他の農園でも再現可能であり、気候変動の影響を受ける地域で再生農業の知識を広く普及させることができます。

一方、**コスタリカ**では、農業研究・研修機関CATIEと協力し、再生農業を促進するハイブリッド・コーヒー苗木を開発しています。この苗木は葉さび病や害虫、その他の病気に対して耐性があり、生産性を高めると同時に農薬使用量を減らすことができます。ボルカフェ・コスタリカは、病虫害の影響を受けやすくなった老朽化農園の再生を支援する再生農業パッケージの一環として、150軒の農家に26,000本以上の苗木を提供する予定です。

26,000本

配布されたコスタリカで
抵抗性ハイブリッドコーヒーの苗木本数



炭素削減

ボルカフェは、コーヒーのサプライチェーンにおける温室効果ガスの排出を大幅に削減するため、詳細なCO₂排出量計測とライフサイクル分析を行ってきました。その結果、排出量の大部分が農園で発生していることが明らかになり、再生農法の導入が重要である理由のひとつとなっています。こうした農法は、農園からの炭素排出を減らすだけでなく、気候変動の最悪の影響からコーヒーの未来を守ることにもつながります。双方にとって有益な取り組みです。

コロンビアでは、カルカフェ社が農家と協力して、炭素排出の分析と削減に取り組んでいます。ウイラ州では10軒の農家が参加する実証実験が行われ、農園内の排出源を特定し、的を絞った介入と効率改善を通じて削減計画を策定しています。具体的には、土壌分析、作物に応じた栄養計画、堆肥化改善のための微生物活用研修などが実施され、カルカフェ社から寄贈された廃水処理設備も活用されています。

特に注目されているのがバイオ炭です。農家は、農園で発生するバイオマス廃棄物からバイオ炭を作る方法を学びました。バイオ炭は土壌の健全性を高めるだけでなく、地中に炭素を固定する役割も果たします。また、バイオ炭はカーボン・クレジットを生み出す可能性があり、経済的インセンティブや技術指導と交換する形で活用されています。

こうした技術を他の持続可能な農法と組み合わせることで、農家は収入を増やしながら農園の回復力を高め、排出量を削減し炭素を隔離することができます。





生物多様性の保護

気候変動の影響を受ける中で、生物多様性の保全と促進は、農業においてますます重要な課題となっています。農薬や除草剤の使用を制限したり、廃棄物管理を徹底して循環型農業を推進したり、野生動物が生息できる環境を整備したりすることで、農園は環境への影響を減らし、周囲の生態系にも好影響をもたらすことができます。

コスタリカでは、農薬の使用によって土壌の肥沃度が低下しやすいため、効率的な雑草管理が特に重要です。2024年、ボルカフェ・コスタリカは、ネスプレッソ社との共同出資による再生圃場に焦点を当てたパイロット・プロジェクトを実施しました。農薬削減は通常、人件費の増加を伴うため、このプロジェクトでは農家が雑草をより効率的に管理できるよう、専門の刈り込み機も提供しました。試験には、610ヘクタール以上の農園で150人の革新的なコーヒー生産者が参加しています。

ベトナムでは、ボルカフェのグループ会社ダックマン社が、Global Alliance on Health and Pollutionおよび英国国際開発（UK International Development）と協力し、農薬の誤用や過剰使用を防ぐための総合的病害虫・雑草管理（IPM）の導入障壁を調査するプロジェクトを実施しました。このプロジェクトでは、IPM導入の現状や農薬使用が環境・人の健康に及ぼす影響を調査するとともに、IPM促進のための研修資料を作成。10人の主要トレーナーがワークショップや研修を通じ、500人の農家に実践を支援しました。さらに、デモ農園を2箇所設置し、参加農家には果樹や日陰樹を提供して生物多様性の向上も図りました。



剪定師がコスタリカの農薬使用削減に貢献

コロンビアでは、カルカフェ社が400軒の農家を対象に廃棄物管理の改善を支援してきました。農園に水処理システムを導入することで、コーヒー加工で出る残留水をろ過し、周辺環境への影響を軽減しています。また、堆肥化ピットの増設により、コーヒー加工から排出されるメタンの削減にも貢献しています。

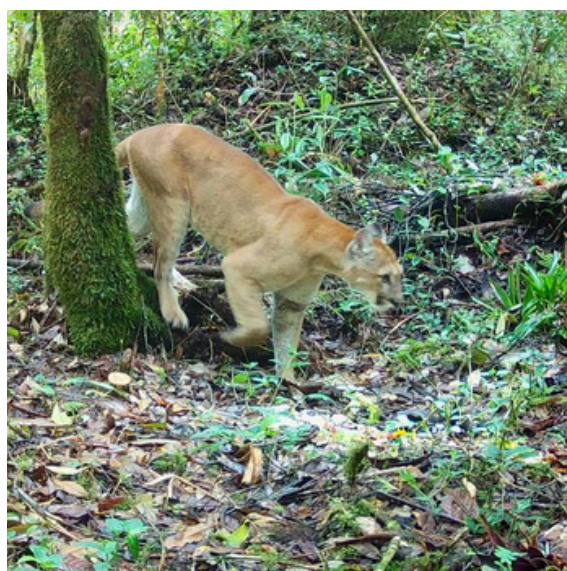
グアテマラでは、ボルカフェのグループ会社ピーター・シェーンフェルド社が2019年より、NPO団体パンテラと協力してシエラ・デ・ラス・ミナス山脈の自然生息地保護プロジェクトを実施しています。75軒の農家と協力し、農園や周辺地域に果樹を配布しながら、コミュニティ苗床を設置して国内の野生動物の保護にも取り組んでいます。このプロジェクトでは遠隔カメラを用い、アルマジロ、コヨーテ、マーゲイ、多くの鳥類、さらにはピューマなど30種以上の動物が確認されました。また、夜行性のキンカジュ（ミコレオン）の存在も明らかになり、この地域に新たな生態知見をもたらしました。

これらの事例は、農家自身が生物多様性の保全と促進に貢献できることを示しています。

30+

グアテマラのプロジェクト地域で
記録された動物の生体種数

左上から時計回りに：グアテマラのシエラ・デ・ラス・ミナス地域で目撃された
コヨーテ、アルマジロ、ピューマ、キンカジュー



ルウェンゾリの農家にとって前進となる、 気候変動に配慮した総合的な取り組み

ウガンダのボルカフェ・グループ会社、チャガラニ・コーヒー社は、IFC（国際金融公社）およびネスプレッソ社と協力し、希少なコーヒー品種を保護しながら、コーヒー生産コミュニティの持続可能で回復力のある生計を支援しています。

このプロジェクトでは、ルウェンゾリ山地の零細農家3,300軒を対象に、気候変動に配慮した農法や再生農法の技術を導入し、コーヒー生産を向上させています。価格プレミアムやその他のインセンティブは、農園での再生農法の適用を促進し、より広範なコミュニティ開発には、ジェンダー平等トレーニングや村のVSLA（貯蓄貸付組合）への参加などが含まれます。

農家が農園をビジネスとして運営できるよう、金融リテラシーや記録管理に関する研修も提供され、女性農家には追加的な支援と情報が届けられています。その結果、参加農家は貯蓄や予算管理の重要性を理解し、副収入として家畜の飼育、石鹼作り、コーヒー取引、イベント用具のレンタルなどに取り組むようになりました。

現在、76の農家が運営するVSLAには85,000 USD以上の資金が集まり、1,065件の融資が農園への投資に活用されています。

また、再生農法の導入により、コーヒーの平均歩留りは2年以内に1本あたり2.9kgから3.9kg以上に増加しました。この高品質コーヒーはプレミアム価格で取引され、地域社会にさらなる経済的チャンスをもたらしています。





責任ある市民活動

農家は孤立して暮らしているわけではなく、家族と共に生活し、近隣から助言や支援を受け、子どもを学校に通わせ、地域の診療所を利用し、地元の商店と取引を行っています。ボルカフェは多くのコーヒー産地で活動しており、こうした地域社会の一員として役割を果たしています。

ボルカフェのサステナビリティ戦略の3本目の柱である「責任ある市民活動」とは、繁栄するコミュニティを育むための信頼できるパートナーとなることです。私たちは、生産者との取り組みや顧客との協力を通じて、地域のニーズに応じたプロジェクトでコーヒー生産コミュニティを支援しています。具体的には、

- 農家の家族の潜在能力を引き出すためのジェンダー平等の推進
- 児童労働リスクを減らし、子どもたちの学びの機会を確保する教育支援
- 生産者やコーヒー労働者、地域住民の医療ニーズに応えるインフラ支援

などがあります。これらの取り組みは、農家の生活向上と再生可能農業による気候変動対策を補完し、コーヒー・コミュニティの社会経済的進歩へのコミットメントを示すものです。

さらにボルカフェは、業界全体の実践と成果向上を促進するため、セクター別の活動や持続可能性スキームにも参加しています。例えば、2024年には、コーヒーのサプライチェーンにおける児童労働の撲滅に向けて国際労働機関（ILO）の「児童労働プラットフォーム」に参加しました。

次のページでは、こうしたプロジェクトの具体例と、的を絞った支援がもたらす変化をご紹介します。

コーヒー産業が直面する社会経済的課題に対応するため、サステナビリティ戦略のこの柱には、以下のトピックが含まれています：



1. ジェンダー平等



2. 教育



3. 健康

ジェンダー平等

ボルカフェでは、女性コーヒー生産者がより積極的にコーヒー生産に関わるため、ジェンダー平等と女性のエンパワメントの推進に取り組んでいます。女性は家庭の日常生活で重要な役割を担うだけでなく、家計管理や子どもたちの教育にも深く関わっています。

昨年実施したプロジェクトの一例として、タンザニア南部では4つの新しい女性グループを対象にワークショップを開催しました。4つの異なる農家協同組合から5人の女性が参加し、コーヒー農業、品質向上、金融リテラシーに関する知識を習得しました。この取り組みは、女性のコーヒー生産への参画を促進し、収入や雇用機会を増やすことで、経済的自立と自信を育み、最終的には地域社会での影響力向上につながることを目指しています。



タンザニアの女性コーヒー生産者向けワークショップ

「女性たちとの仕事はいつも楽しいものです。彼女たちは学ぶことに熱心で、コーヒーの品質向上に尽力しています。自分たちの農園を始めるための苗木を受け取ることは、有意義で感動的な前進でした」

Rosalia Mkungilwa氏、アシスタント・トレーダー、タンザニア

コスタリカでは、フィンランドのロースター、パウリグ社との提携により、女性生産者は「ビーン・ボヤージュ（Bean Voyage）」による研修に参加しました。研修では事務処理能力を身につけ、修了後にはベンチャー企業を立ち上げるための資金援助も受けました。

ウガンダのマサカ地方では、チャガラニ・コーヒー社がGEF（地球環境ファシリティ）とネスプレッソ社と共同で実施したプロジェクトにおいて、49人のチェンジ・エージェントの採用と研修を支援しました。チェンジ・エージェントは農園で88の村にあるVSLA（貯蓄貸付組合）を設立・運営支援し、1,000軒以上の家庭を訪問。ジェンダー平等や金融リテラシーに関する研修を提供しました。これまでに600以上のVSLA会合が開催され、メンバーは家計改善に活用できる資金を得る新たな道を開きました。

グアテマラでは、コーヒー産業は従来、男性が多くを占めていました。女性は労働力の70%を担いながらも、土地、信用、情報へのアクセスが制限されるなど、制度的な障壁に直面しています。ウェウテナンゴ地区とクブルコ地区の女性農家が生産するコーヒー「ラ・モレナ」は、こうした女性のエンパワーメントを象徴しています。ボルカフェ・ウェイ・プログラムの支援により、これらの農家は品質向上、歩留り改善、収入増加を実現し、農園を実行可能なビジネスへと変えました。



グアテマラの女性コーヒー生産者



レモリーノの改築された学校



レモリーノの学校周辺のフェンス

教育

教育や学習の機会は、子どもたちとその家族に多くの可能性を開きます。しかし、学校へのアクセスが制限されたり、安全でない経路を通らなければならなかったりすると、子どもたちは重要な形成期の経験を逃すリスクが高まります。また、こうした状況は児童労働やその他の搾取につながる可能性もあります。ボルカフェはこの問題を深刻に受け止め、教育支援を積極的に行っています。

長年のパートナーであるコスタ財団と協力し、コーヒー生産地域の支援に重点を置くことで、コロンビア、ペルー、ベトナムで学校建設や教育支援を通じ、子どもたちの教育へのアクセス改善に取り組んできました。

コロンビアのナリーニョ県タミナング地区にある「エル・レモリーノ学校」には、周辺地域から460人の生徒が通っています。違法作物や麻薬の密売ルート沿いに位置するため、治安上の課題に直面しており、教育支援が特に重要な地域です。

- 2020年：老朽化した8つの教室を改修
- 2024年：子どもたちの安全性向上のためフェンス建設に資金提供

これらの取り組みにより、学校コミュニティ全体がキャンパスの改善に満足しています。

ベトナムでの同様の取り組みでは、ボルカフェは、未就学児向けの保育園を新たに建設しました。この施設には、インターネットへのアクセス、給排水システム、改善された電力設備を備えた教室があります。2024/2025年度には500人の子どもたちが入学し、村の家族は子どもたちに教育機会を提供できたことに深く感謝しています。

ベトナムの多くの農村部では、公用語であるベトナム語の教育が中学生から必修となる場合が多く、集落では十分に教えられていません。就学前から公用語を学ぶことで、子どもたちの発達や学習、将来の展望に大きく寄与します。

ペルーでは、2024年3月、ボルカフェ・ペルーとコスタ財団の提携により、ハルキージャ学校（小・中学校、最大110名収容）が開校しました。これは、同地域で設立された8校目の学校です。

校舎には教室、トイレ、事務室、キッチン、メディアライブラリー、多目的スペース、屋外スポーツ施設が備えられています。開校時には祝賀ランチが催され、子どもたちは新しい学校を探検しました。



ペルーのハルキージャ校開校式

健康

ボルカフェは、コーヒーコミュニティにおける安全な飲料水や衛生設備へのアクセス改善、ヘルスケアの推進、栄養改善、地域社会の生活向上に取り組んでいます。これらは持続可能な発展と幸福の基盤となるものです。

グアテマラでは、スタンプタウン社との連携で、バハ・ベラパスのクブルコにある Xolaij（ショライフ）村の学校にキッチンを建設しました。74人の生徒（多くはコーヒー農家の子ども）が利用できるこの厨房により、病気リスクを低減し、栄養状態を改善。地域全体の健康と福祉が向上しました。

パプアニューギニアでは、複数の焙煎業者と協力し、28,000人以上の生徒が通う100校以上の学校で衛生プログラムを実施しました。清潔な飲料水の提供や学校の衛生環境改善により、感染症を予防し、就学率向上と児童労働リスクの軽減を目指しています。

また、ボルカフェ・**ブラジル**は、顧客と連携し、農村部の学校 Escola Estadual da Fazenda Bela Vista にスポーツコートを建設しました。体育授業だけでなく、地域の集会や文化行事にも活用され、協力・団結・チームワークを育む場となっています。このプロジェクトにより、85世帯、150人の生徒、28人の教職員の生活の質が向上しました。

Agrolab アグロラボ： 昔からの農村流出問題への新しい取り組み

ペルーの農村部では、若者がより多くの機会を求めて都市部に移住するのが一般的です。ボルカフェ・ペルーは、家の近くで進学や将来の可能性を見いだせず、農業の将来性にも疑問を抱く若者が多いことに以前から注目してきました。都会は大学や広範な雇用の可能性で魅力的に映りますが、現実には、都市に移住した多くの若者が高い生活コストや非正規雇用に直面しています。

こうした課題に対応するため、ボルカフェ・ペルーは2024年にカハマルカ地方にエル・ワボ・アグロラボを開設しました。これは、農村の状況に適した技能と技術に重点を置いた新しい教育形式のコミュニティ・スクールです。アグロラボは、物理的な教育施設の整備と、参加型プロセスを通じて実施される農業教育モジュールの両面を提供し、地域のニーズに沿った専門的な研修機会と社会的発展を支援しています。

カリキュラムの特徴：

- 伝統的農園技術を再評価しつつ、持続可能性に重点を置いた科学技術のトピックを導入
- 生徒はスマート・ポットを使った植物データ収集を体験
- 作物を効率的に混植するスマート野菜圃場モデルの設置を学ぶ
- 農業ビジネスのスキルや起業家精神を育成

地域との連携

- ボルカフェ・ペルーのパートナーであるNGOセミジャスが設計
- 校舎は生徒だけでなく、コーヒー生産者を含む地域住民も利用可能
- 教育環境やカリキュラムを国内のニーズに合わせることで、若者が都市へ移住する代わりに、地元で将来を考えることを促進

アグロラボはまだ初期段階ですが、農村部の若者に新しいスキルやアイデアを提供し、地域コミュニティでの持続可能な成長や、農業への関心を高める重要な取り組みとなっています。

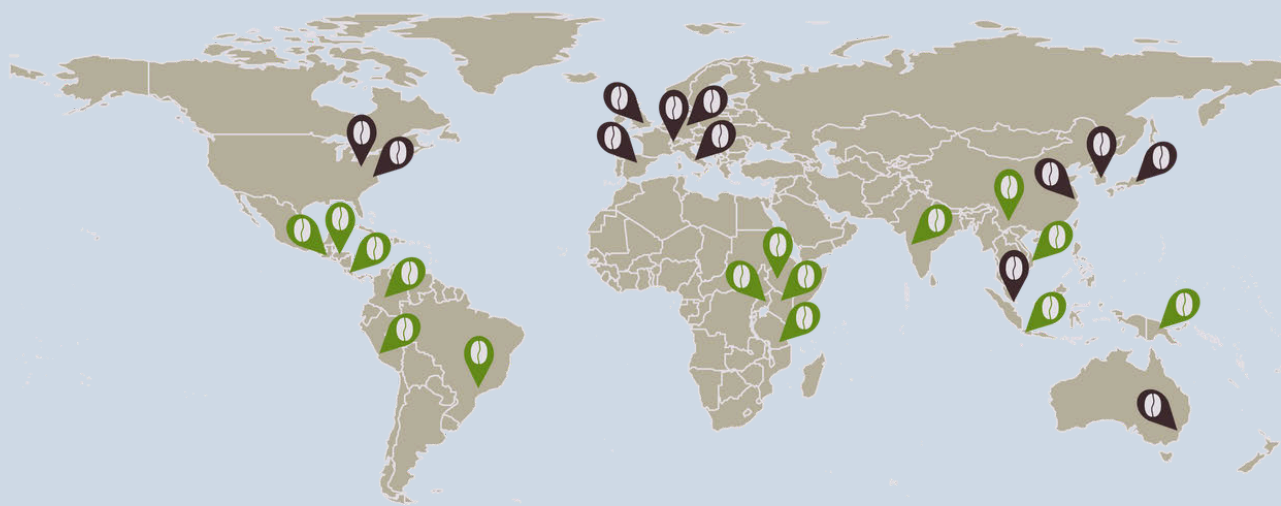


ペルーのエル・ワボ・アグロラボの教室





拠点一覧



15 生産国の拠点

ブラジル
中国
コロンビア
コスタリカ
エチオピア
グアテマラ
ホンジュラス
インド
インドネシア
ケニア
パプアニューギニア
ペルー
タンザニア
ウガンダ
ベトナム

11 貿易拠点

オーストラリア
中国
ドイツ
イタリア
日本
シンガポール
韓国
スペイン
スイス（本社）
米国



Making coffee business better, together.

三方よしのコーヒービジネスを目指して

この冊子では、ボルカフェとそのパートナーが世界中のコーヒー生産国で実施しているインパクト・プロジェクトの一部をご紹介します。

より多くの農園を巻き込み、コーヒー・コミュニティにより大きなインパクトを与えるための成長の余地は常にあります。

私たちと一緒に、より多くのことを実現しませんか？

あなたの最も差し迫った課題に焦点を当てたプロジェクトと一緒にデザインできます。

例えば：

- 生計向上や生計収入の獲得
- コーヒーのサプライチェーンの脱炭素化
- ジェンダー平等の達成
- コーヒー・コミュニティの子どもたちの教育促進

あなたの願望やアイデアを、ボルカフェの担当者またはグローバル・サステナビリティ・チームにお伝えください。私たちは世界最高のコーヒー・パートナーでありたいと考えています。

私たちと共に、すべての人のための繁栄と持続可能なコーヒービジネスを目指しましょう。





Making coffee business better,
together.

ボルカフェ株式会社

〒650-0034

神戸市中央区京町80番クエイト神戸

volcafe.co.jp / volcafe.com

